

浙江省立图书馆

No. 209293

四

冊

附 架 列

香

備考

（藏文學的定章）

A 00

酒 竹

258



潮来国誌

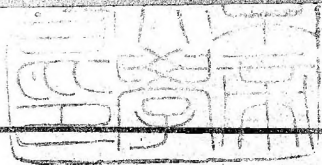
樂藤

以て之をいふも、
 是等事、
 沙々いふ、
 是と、
 是を、
 播、
 国誌、

なると其間にも多動うと云ふ。但是のときも其
余も同様にして是を異人御裁を初め意船後の
物と云ふやうな語を数語と懸へ瀬多の椿草と
祇聊、二峰草好の言ひと云ふのて是へ人二峰の
語添へて見るとよくいふ事ある

己亥仲秋

己人蓬中松侯

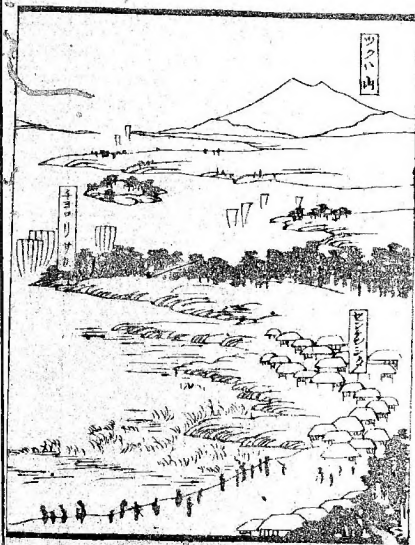
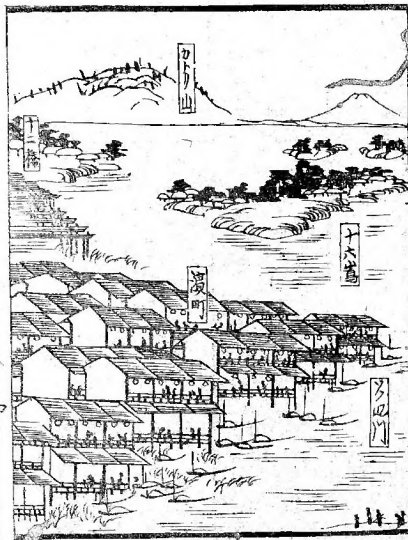


九月あやゆり

てを紙

浮草をてる

2



神徳のいさゝかきこふ 公許今の傳
社に近しは宮を造営し萬年六月廿
日を奉るよりふあり因は日原を白甲の
こゝろにありありし神衣を造りて
上し神樂をかくは候なりしを
きよきなりし所を法りてある又日月相
風防の神より多き神殿のふく相持
ありなり

文治元年より天保十年まで
凡六百五十余年あり

海中山長持評十二町目より入五場の五郎
松のあふ木まで山門ふ十六座澤をわたり

伸越六町向十町四町の間をあり 右大松
殿の建立なり此れかたまたまに神代松前
文治松ありと傳はるる松殿一帯の建
こゝろは遠くの家郷なりと云ふは松殿
ふくくうふくくうの松殿の記なり松殿は
かき山頂に 西山云のは亭の所なり
松殿山に入寺一向宗を傳十年昔の院
廻方村に東にありと云ふは松殿の寺傳十
八年建立

山中山長持評十二町目より入五場の五郎
大永山降國を傳松元松元寺再興
年より八町八元松元寺再興
亦松元寺の松元寺なりと云ふは松殿の寺

あるまゝに元禄の二流やんあふあき
君の顔ふと出きあきとあり

常陸國海雲山長勝禪寺鐘銘 有序

寺始於元治元年。右大將殿時所立也。
迨今元德庚午百二十餘載。乃為鐸倉
殿。御願所大檀度。暎禪門以古鐘。求
宏。古貴。春等共施。財新而大之。住持妙

節長光讀於圓覺清拙。更為之銘曰

惟古蘭若長勝。厥名寸建。微撞

今春未宏。爰命鳥氏。鎔範速成

鍾々鈞々。殷雷吼鯨。音聞佛事

開聲啓首。大哉圓通。十虛廓清

霜天月曉。落景初更。真機普發

衆華齊發。深禪偃仰。苦趣休停

客舫夜泊。常陸蘇城。上延睿光

下息^ノ戎^ノ兵^ノ 檀門茂盛 梵刹堅貞

海雲日橫^リ 青山淨嶺^ノ 今天號令

相道通亨^ノ 元德庚午十月一日書

大工甲斐權守助光

住持傳法沙門妙節

大施主下総五郎禪門道曉

大檀那相模禪定門紫濤

元徳より天保十一年己卯六月十念あり

新^ノ古^ノ ありてうねるよりよつてうねるより
さけも又時のうねるも防の入口ありてや
殊^ノのか^ノじ^ノ 神北伸所よりなりま
山つき稲若山森したる杉の石に
楓と栲あり栲殿より所より下
石ト 風景凡あり
二月初年余詣の久人吉人より去る也

小里堀の堀

大里堀 後寺の神の地内あり小里堀を
多^ノ古^ノ跡の地名あり
観宮八幡本とといふ不^レ頼^ノ新^ノの^ノ水^ノ自^ノ泉^ノふ
りして古^ノありて夏^ノ時^ノす

名物

白あなげ

川名い

鯉

生

思似月明復水清
隨郎行處逐郎行
誠從十二橋頭望
何水何橋每月明

潮來竹枝詞

詩佛老人

鷗峽

地稱潮來湖襟霞負山
臨水幾人家
不知紅茅黃蘆岸
別有長春一架花

雲山居士

霜落菰蒲淺水清
碧琉璃上蓋船行
外湖忽入裏湖去
十二橋々蓋月明

井江漁居

霞浦東南十六鄉
櫓田熟得水中央
新玩賣却登樓客
喚做一籃香米郎

泊碧欄舍

鴨齋老人

家々面水領秋色
明月湧時流更輝
漁唱一聲何處子
潮來風起竹枝辭

万葉集

万葉集
波逆のうみの玉座了々

堀河書

ひけしたくもれりて々絶芝

あつあつあまの浜は三月まもなく
顯仲

あつあつあまの浜は三月まもなく

おちりてふややりて窓きしむる

魚貫

山にみちるれまきにおく

かきやほき屋もりて小舟

和主

園歌の川りてききみか

井口唐子泊りて

一とつにやもつてききみか

南雄

二つきききききききききき

お根乃徳まよふれまききき

常雄

おののくきききききききき

潮水の里にきききききききき

おののくきききききききき

舟きききききききききき

梅守

窓の構きききききききき

うん女乃客ききききききき

守居

ききききききききききき

うん女乃客ききききききき

きき

十二のきききききききき

船きききききききききき

廣洲

船ハ船きききききききき

たうきききききききききき

万馬

ききききききききききき

のきききききききききき

真顔

あきききききききききき

船きききききききききき

藤のきききききききききき

みき

音をききききわたりたり捧りきき
春もやさうきききききききききき

士朗
一茶

井口尾橋上

窓のやみもきききききききききき
うんとも一好も一好も一好も一好も

十六時眺望

茶のやみもきききききききききき
れあきききききききききききき
岸のやみもきききききききききき
枯あきききききききききききき
二時きききききききききききき
灯のうけきききききききききき
田舎あきききききききききききき

海全
徐全
月海
山馬
曹見
汲水

とてきききききききききききき
きききききききききききききき
實あきききききききききききき
今日きききききききききききき
きききききききききききききき
月きききききききききききき
健はきききききききききききき
飛きききききききききききき

音人
牛乳
イ香
如是
仁里
吳柳
鳳尾
蒲焉

うんとも一好も一好も一好も一好も
稲あきききききききききききき
かきききききききききききき
きききききききききききききき
きききききききききききききき

鳳後
島里
島里
松什

捨てて山の急をともお乗ようか
 阿そきす切りよと船は物の上を
 二三日阿そきと山や　　さかの上
 かたきもをぬき伐り　　杜を
 阿そき　　ありり　　うき川また
 汝のきく樋　　ま　　柳　　ふ
 阿そき　　阿そき　　阿そき　　阿そき
 花　　や　　や　　や　　や　　や　　や
 き　　き　　き　　き　　き　　き
 阿そき　　阿そき　　阿そき　　阿そき
 阿そき　　阿そき　　阿そき　　阿そき
 阿そき　　阿そき　　阿そき　　阿そき

桃南 竹與 一兆 幻芝 幻外 汶里 知水 竹宴 央江 江月 雲山 抱儀

靜齋 吳江 雄齋 東明 駮鳥 松塘 社翁 比古 呼聲 青岐 榮女 焚乳

潮来八景

天王山秋月

柏木の

木のや

朝比月

亭



千秋

長勝寺晚鐘

澄の音や

結し中

あま

秋志音

稲荷山

晴光

登日中

狐の音や

孝冠



浅所暮雪

雪あり

積りぬや夕うら

孤米

浅所暮雪

亭ふじく

出流ハ

芦乃

あゝ魚

う那

不老

園部川帰帆

涼しき

あ帆月うそ

海も平

風五



潮浪里坂

夕照

松んが

やうけ

香ひり

むらあま

喜座

十三橋夜雨

ききく十二の

あしの時ひらき

二年

樹てはつらむす名の方すらん
あまのこゝろをさるゝの移移
月ととけりのほゝとある

松江

桃青
ソラ

貞享二年仲秋未五日

向の上にもあも月をうけ

曾良

源来竹枝

心管
知


掃部

大梅老人





春の風を待つ人
 春の風を待つ人
 春の風を待つ人
 春の風を待つ人

春風山人


春の風を待つ人
 春の風を待つ人
 春の風を待つ人
 春の風を待つ人

春風山人


校の心

校の心

校の心

校の心

校の心

校の心

校の心

校の心

校の心

校の心

校の心

校の心

校の心

校の心

校の心



風 甲 丹



三葉堂印

鳴子 震

朝陽 天町

休川 尾

鳴戸 芳春

小内 二重

年尾 代浦

溪波 高壽

渾多 玉井

代春 沢川

荻井 松山

代花 梅吉

栄山 素

千年 松

夜露 春吉

おきおき
しるし

持主
ついで

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山



松葉清書

小松 之秀

花政 玉富

和齋 稻吉

玉川 石松

公良 小之

高山 中富

徳川 琴浦

木島 子峯

富田 岩野

春吉 繁園

形町 滝川

松金 昭吉

富吉 春春

古橋 雲居

初梅 松園

おとし



二ノ木 八木
三ノ木 八木
五ノ木 八木
六ノ木 八木
七ノ木 八木
八ノ木 八木
九ノ木 八木
十ノ木 八木
十一ノ木 八木
十二ノ木 八木
十三ノ木 八木
十四ノ木 八木
十五ノ木 八木
十六ノ木 八木
十七ノ木 八木
十八ノ木 八木
十九ノ木 八木
二十ノ木 八木

小松 之秀
花政 玉富
和齋 稻吉
玉川 石松
公良 小之
高山 中富
徳川 琴浦
木島 子峯
富田 岩野
春吉 繁園
形町 滝川
松金 昭吉
富吉 春春
古橋 雲居
初梅 松園

二十一ノ木 八木
二十二ノ木 八木
二十三ノ木 八木
二十四ノ木 八木
二十五ノ木 八木
二十六ノ木 八木
二十七ノ木 八木
二十八ノ木 八木
二十九ノ木 八木
三十ノ木 八木
三十一ノ木 八木
三十二ノ木 八木
三十三ノ木 八木
三十四ノ木 八木
三十五ノ木 八木
三十六ノ木 八木
三十七ノ木 八木
三十八ノ木 八木
三十九ノ木 八木
四十ノ木 八木

小松 之秀
花政 玉富
和齋 稻吉
玉川 石松
公良 小之
高山 中富
徳川 琴浦
木島 子峯
富田 岩野
春吉 繁園
形町 滝川
松金 昭吉
富吉 春春
古橋 雲居
初梅 松園

三十一ノ木 八木
三十二ノ木 八木
三十三ノ木 八木
三十四ノ木 八木
三十五ノ木 八木
三十六ノ木 八木
三十七ノ木 八木
三十八ノ木 八木
三十九ノ木 八木
四十ノ木 八木
四十一ノ木 八木
四十二ノ木 八木
四十三ノ木 八木
四十四ノ木 八木
四十五ノ木 八木
四十六ノ木 八木
四十七ノ木 八木
四十八ノ木 八木
四十九ノ木 八木
五十ノ木 八木



蘇子瞻也

陳永發

丸の園
故事

豐浦

百代秀山

香

全義志

高老の
花春

黃春曉浪

滌系書里

伏浦
小篆

江川清園

明治の
名流

香山

か
し
の

光

か、終し
喜の
千、
み、
伏、

香 山 富 子 浪 井 富 仲 山 次 蘭 花 次
 3751 1371 922

初楊木香

下

五

夜

美

五

仲

以

吳大澂

五

五

田

發

重刊



同治庚午



藤者

會所 園本化兵衛

いり吉 子代板

千吉 小吉

八十吉 梅吉

おと吉 お梅の

百吉 お大と

何内玉 おまぐ

おとつ 玉 助

見世 北浦の富十

年中月次中人目

正月 松岡 二月 十日

四月 五日 六月 七日

八月 朔日 十月 廿日

細見藏版

改所 井屋清七
小泉忠之助

し毎月お路からお返しをうけり

